



# へプタゴンだより

2学期がスタートしました。早いもので2024年度も折り返しです。この間、大谷選手は47号も打ちました。凄いの一言。48盗塁と併せると、とんでもないスーパースターです。

夏が続いています。とにかく暑いですが、教職員の皆さん、元気ですか？

体育大会、運動会、暑い季節になじまない運動行事。学校行事のあり方を本気で考える時期に来ていることも事実です。「年間の教育活動をマネジメントする」。この作業は大切ではありますが、だいたい頓挫するものです。

その学校着任1年目。「こんな行事はおかしい。もっと子どもの事を考えて実施しないと」と、来年度への見直しを決意する。

2年目、「今年は、やり方を変えましょう」と意見を言う。しかし、地域とのこともあるので、いいんじゃないのと言われ、不服だが妙に納得する。また、来年言おう。

3年目、提案者に。まあ、これまで通りでいいかと、自分に言い聞かせ、昨年を踏襲した提案で自己満足。あ～あ。

一人で変えることは難しい。だからこそ、仲間と日常的に話すことが大切です。日々語り合える同僚(なかま)がいる環境は素晴らしい。そんな空間がいつも側にあってほしいですね。【教育長 下田 博】



## 学校の魅力 紹介～大野小中学校～

大野小中学校では、地域のエキスパートからの指導を受けて、「自然・人・ふるさと」に関わる活動を行っています。今回は、1～6年までが、地域の先生に教わりながら、図工の時間に水墨画を描きました。大野町には、室町時代の水墨画の大家、雪舟の描いた「鎮田瀑図(ちんでんばく



3年生の作品



ず)のモデルとなった「沈墮の滝」があります。大野郡時代に町おこしとして水墨画関連

の事業が始まり、子どもから大人まで水墨画に親しむ取組が進められたそうです。それをきっかけに、約36年間もの間、大野町内の小学校での「水墨画教室」が続けられてきました。今年は、「大野町水墨画クラブ」から河野邦子さん、高尾エツ子さん、板井美恵子さんの3人が、指導にきてくださいました。



4年生の作品